

令和 3年度 行政評価事業別シート

	<input type="checkbox"/>	実計対象	<input type="checkbox"/>	評価対象	<input checked="" type="checkbox"/>	新規	<input type="checkbox"/>	完了事業	<input type="checkbox"/>	ゼロ予算事業	<input type="checkbox"/>	担当者	栗田
		全体計画						経費区分		-		内線	3252
事務事業名	4135 環境対策事業												
所 属	121000 市民環境部・生活環境課												
施 策	13011100 環境を守る活動の推進												
予算 科目	会計	01 一般会計											
	科目	040106 衛生費・保健衛生費・公害対策費											
	事業	010000 環境対策事業											
事業目的							事業概要・効果						
市民の生活環境保全のため、河川水質調査や環境保全パトロール等を実施し、また、各種苦情の早期解決に努める。騒音規制法、振動規制法、悪臭防止法などに基づく規制基準の遵守のため指導及び改善勧告等、必要な措置を行い公害の防止に努める。							河川の水質調査や地域環境保全巡回パトロールを行い、現状の把握や水質汚濁防止等に努める。また、騒音防止法、振動防止法、悪臭防止法に基づく指導等により、公害防止に努める。 地下水資源保全・活用計画検討業務を完了させる						

PLAN-DO

年度実績及び予定

令和 2年度 実績	令和 3年度 予定
河川の水質調査、公害苦情等の処理、千曲川河川一斉パトロールの実施、騒音規制法・振動規制報・悪臭防止法による指導、アレチウリ撲滅作戦、空間放射線量の定点測定、自動車騒音常時監視及び面的評価業務自動車騒音常時監視及び面的評価業務 等	河川の水質調査、公害苦情等の処理、千曲川河川一斉パトロールの実施、騒音規制法・振動規制報・悪臭防止法による指導、特定会社生物の駆除、空間放射線量の定点測定、自動車騒音常時監視及び面的評価業務自動車騒音常時監視及び面的評価業務 等
令和 4年度 予定	令和 5年度 予定
令和 6年度 予定	令和 7年度 予定

指標名	主要河川BOD値の改善				
算式	市内主要7河川の観測地点のうち、目標基準（2.0mg/ℓ）以下を満たしている割合				単位
年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
目標値	目標				
	実績				
指標選定の理由	第3次須坂市環境基本計画に基づき設定				
最終年度目標の根拠	市内主要7河川の観測地点のうち、目標基準のである100%を満たすため。				
指標名					
算式					単位
年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
目標値	目標				
	実績				
指標選定の理由					
最終年度目標の根拠					
指標名					
算式					単位
年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
目標値	目標				
	実績				
指標選定の理由					
最終年度目標の根拠					

事業費

(単位：千円)

		令和2年度 決 算	令和3年度 予 算
事業費		14,598	14,382
特定財源	国庫支出金	0	0
	都道府県支出金	0	0
	地方債	0	0
	その他	0	0
一般財源		14,598	14,382
人員数(人)	正規職員	0.8	0.0
	嘱託職員	0.5	0.0
	臨時職員	0.5	0.0
人員コスト	正規職員	5,574.4	0.0
	嘱託職員	1,574.5	0.0
	臨時職員	839.0	0.0
	計	7,987.9	0.0
市民一人当たりの経費		0.4	0.3
総額		22,585.9	14,382.0

(単位：千円)

令和2年度決算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
7節 報償費	0	講師謝礼0
10節 需用費	172	消耗品費110、燃料費62
12節 委託費	9,729	水質検査委託984、悪臭調査委託料286、騒音調査委託料1,837、振動測定委託料0、水資源保全条例改正支援2,772、環境基本計画策定業務3,850
14節 工事請負費	0	
18節 負担金補助及び交付金	11	信濃川を守る協議会負担金6、高山植物等保護対策協議会負担金5、国立公園都市協議会負担金0、会議出席負担金0
その他	4,686	報酬・手当3,848、共済費590、旅費79、役務費131、使用量及び賃借料0 公課費38

(単位：千円)

令和 3年度当初予算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
7節 報償費	16	講師謝礼16
10節 需用費	302	消耗品費94、燃料費106、食糧費12、修繕料90
12節 委託費	9,014	水質委託1,300、悪臭委託料358、騒音調査委託料3,000、振動委託料330、地下水管理支援業務3,927、土壌委託料99
14節 工事請負費	0	
18節 負担金補助及び交付金	26	信濃川を守る協議会負担金6、高山植物等保護対策協議会負担金5、国立公園都市協議会負担金15
その他	5,024	報酬3,551、職員手当等589、共済費641、役務費158、旅費80 使用量及び賃借料5、公課費0

CHECK

個別評価		
項目	評価観点	評価内容
必要性	<ul style="list-style-type: none"> 市民の生命・財産を守るため市が実施することが必要不可欠な事業であるか 行政内部の管理運営上必要な事業であるか 市が主体となり実施すべき事業か 法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか 目的は結果（施策の目指す理想）に結びついているか 	必要不可欠
評価コメント	市民が安心・安全な生活を行ううえで必要な業務である。	
有効性	<ul style="list-style-type: none"> 事業の成果は上がっているか 目標に対する達成度は十分か 市民生活上の課題解決に貢献しているか 行政内部の管理上の課題解決に貢献しているか 事業の目的が達成できるような事業内容になっているか 	有効
評価コメント	公害・環境の状況把握や対策に対して有効な事業であると考える。	
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 成果を落とさずにコストを削減する方法はあるか 効率性向上に努めているか 使用料などの受益者負担や補助対象事業の範囲など、財源確保の余地はないか 	変わらない
評価コメント	事業の重要性が高いため必要な範囲のなかでコストの削減に努める。	

振り返り（決算年度の取組み課題）

公害については長年の懸案事項等について、県と連携して交渉等を行い好転している事案もあるが、交渉すら難しい事案もある。引き続き根気よく交渉及び対応を行っていききたい。また、委員会組織で検討を行っている水資源保全条例等の改正については、持続可能な水資源の保全と活用が図れる条例改正となるよう検討を行っていききたい。

ACTION**1次評価****2次評価**

次年度以降の方向性	進め方の改善（拡大）	次年度以降の方向性	進め方の改善（拡大）
総合評価コメント		2次評価コメント	
<p>長年の懸案事項となっている公害問題等について、引き続き関係機関とも連携を取りながら、解決に向けてきるところから粘り強く取組んでいく必要がある。また、地下水の持続可能な保全と活用に向けた条例改正を行う必要がある。</p>		<p>懸案事項に関しては、その対策に工夫を凝らすとともに粘り強い取り組みが肝心である。また、水資源（地下水）保全条例の改正に関しては、持続可能な活用と保全となるようしっかりと合意形成を図る中での条例改正が必要である。</p>	

外部評価

次年度以降の方向性	
外部評価コメント	